

茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標・KPI進捗状況調書

担当部・課名 企画部・企画課
(内線 2537)

1 項目

[数値目標・KPI]

交通空白地解消の担い手となる事業者の数 (H26) 5団体 → (H31) 10団体

2 県総合戦略における位置付け

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
施策	(ア) 人口減少下におけるまちづくり・地域連携の推進 ① 地域公共交通の維持

3 数値目標・KPIの進捗状況

	[単位] 団体	現状値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31
交通空白地解消の担い手となる事業者の数	期待値	5	5	7	8	9	10
	実績値		5				
	達成率・評価(※)		—	—			
出典：県企画部調べ (毎年度調査)	最新データ公表時点	平成 28 年 4 月 1 日			平成 27 年度の実績値		
	次回データ公表時点	平成 29 年 4 月下旬			平成 28 年度の実績値		

※ 評価 A：順調（「実績値」が「期待値」以上）、B+：概ね順調（「実績値」が「期待値」の80～99%）、
B：やや遅れ（「実績値」が「期待値」の50～79%）、C：遅れ（「実績値」が「期待値」の50%未満）

○数値目標・KPIの設定根拠【総合戦略策定時】

【設定の考え方】	概ね毎年1者ずつ増加するものとして算出
【算出方法】	現状値（H26.4.1の運行者5者）＋（1者／年×5年）＝10者

4 指標に関連する取組・成果等

<p>【H27年度の主な取組・成果】</p> <p><取組> ☆事業実施を検討する市町村の洗い出しと、事業化に向けた関係市町村との合意形成</p> <p><成果> ・県と連携して、常陸太田市及び行方市において交通空白地域解消に向け事業を実施する 常陸太田市：自家用有償旅客運送実施地域の拡大 行方市：スクールバスの乗合バス活用によるバス路線の新設</p> <p>【H28年度の主な取組】</p> <p>☆補助制度概要等 ・交通空白地域の解消のため、地域住民やNPO等が行う、自家用有償旅客運送の導入若しくはスクールバス等の乗合バス活用に取り組む市町村に対して支援を行うもの。 ・補助対象は市町村。補助率は2分の1。但し、1市町村あたり2,500千円を上限とする。 ・補助予定先：常陸太田市、行方市（市町村も県補助額と同額以上を負担）</p>
--

★ 地方創生先行型交付金事業による取組 ☆ 地方創生加速化交付金・推進交付金事業による取組
○ その他の取組

5 H27年度（最新年度）実績値・評価についての要因等分析，課題及び今後の取組の方向性

<分析結果>

○人口の急激な減少下における交通空白地解消の必要性が地域に理解され，事業者が確保されている。

<課題及び今後の取組の方向性>

[課題] 県補助制度の周知・新規事業者の確保

○市町村を通じて県補助制度の周知を行い，事業者数の増加を図り，さらなる交通空白地の解消を図る必要がある。

→・市町村と連携しながら，事業の実施に興味を示している団体への働きかけ等を行っていく。

※K P Iの進捗状況や取組成果等を踏まえて記載する。

※課題については見出しを付けて，概要を記載するとともに，「→」で今後の取組の方向性について記載。

茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標・KPI進捗状況調書

担当部・課名 企画部・企画課
(内線 2536)

1 項目

[数値目標・KPI]

コミュニティ交通の利用者数

(H26)2,946,841人/年 → (H31)約320万人 (H26比10%増)

2 県総合戦略における位置付け

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する
施策	(ア)人口減少下におけるまちづくり・地域連携の推進 ①地域公共交通の維持

3 数値目標・KPIの進捗状況

	[単位] 万人/年	現状値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31
コミュニティ交通の利用者数	期待値	295	301	307	312	318	320
	実績値		—				
	達成率・ 評価(※)		—				
	最新データ公表時点	平成27年10月1日			平成26年度の実績値		
次回データ公表時点	平成28年10月下旬			平成27年度の実績値			

出典：県企画部調べ
(毎年度調査)

※ 評価 A：順調（「実績値」が「期待値」以上）、B+：概ね順調（「実績値」が「期待値」の80～99%）、
B：やや遅れ（「実績値」が「期待値」の50～79%）、C：遅れ（「実績値」が「期待値」の50%未満）

○数値目標・KPIの設定根拠【総合戦略策定時】

【設定の考え方】	基準年（H26年度）以降、毎年2%増加するものとして積算
【算出方法】	基準値295万人（H26年度）/年×1.02 ⁵ = 324万人 ≒ 320万人

4 指標に関連する取組・成果等

【H27年度の主な取組・成果】

<取組>

- 各市町村地域公共交通会議等における助言
- 市町村のコミュニティ交通利用促進活動に対する活動費助成（H27：3市町に助成）
- 国の交付金を活用し、公共交通を利用した買物等外出支援事業の実施（H27：コミュニティ交通では取手市で実施。）

<成果>

- 牛久市及び取手市コミュニティバスへのバスロケーションシステム導入支援を行い、コミュニティバスの利便向上につながった。
- 稲敷市や小美玉市において、学校の統廃合や公共交通空白解消といった、地域の実情に応じた新規路線の設定や既存路線の見直しにつながった。

【H28年度の主な取組】

- 各市町村地域公共交通会議等における助言
- 市町村のコミュニティ交通利用促進活動に対する活動費助成（H27：3市町に助成）

★地方創生先行型交付金事業による取組 ☆地方創生加速化交付金・推進交付金事業による取組 ○その他の取組

5 H27年度（最新年度）実績値・評価についての要因等分析，課題及び今後の取組の方向性

<分析結果>

- 市町村への助言や助成等により，地域公共交通の利便性向上につなげることができた。

<課題及び今後の取組の方向性>

[課題] 市町村の地域公共交通網形成計画策定支援

- 地域公共交通活性化再生法の一部改正を受け，市町村では，地域公共交通会議等において，コミュニティ交通を含めた地域公共交通整備の基本となる，地域公共交通網形成計画の策定が行われていることから，これを支援していく必要がある。
- ・県は上記会議に委員として参画していることから，計画策定に関する助言を行っていく。

※K P Iの進捗状況や取組成果等を踏まえて記載する。

※課題については見出しを付けて，概要を記載するとともに，「→」で今後の取組の方向性について記載。

茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標・KPI進捗状況調査

担当部・課名 企画部・企画課
(内線 2535)

1 項目

[数値目標・KPI]

水郡線等の主な駅の1日平均乗車人員

(H26)約4,000人/日 → (H31)約4,000人/日 (現状維持)

2 県総合戦略における位置付け

基本目標	4 時代に合った地域をつくり,安心な暮らしを守るとともに,地域と地域を連携する
施策	(ア) 人口減少下におけるまちづくり・地域連携の推進 ① 地域公共交通の維持

3 数値目標・KPIの進捗状況

	[単位] 人/日	現状値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31
水郡線等の主な駅の 1日平均乗車人員	期待値	約4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	約4,000 (現状維持)
	実績値		4,000				
	達成率・ 評価(※)		100.0% A				
出典: JR東日本ホーム ページ (毎年度実施)	最新データ公表時点	平成28年7月			平成27年度の実績値		
	次回データ公表時点	平成29年7月			平成28年度の実績値		

※ 評価 A: 順調(「実績値」が「期待値」以上), B+: 概ね順調(「実績値」が「期待値」の80~99%),
B: やや遅れ(「実績値」が「期待値」の50~79%), C: 遅れ(「実績値」が「期待値」の50%未満)

○数値目標・KPIの設定根拠【総合戦略策定時】

【設定の考え方】	JR東日本の公表データで把握可能な水郡線9駅の1日平均乗車人員の合計
【算出方法】	水郡線9駅の1日平均乗車人員の合計 (H26年度)

4 指標に関連する取組・成果等

【H27年度の主な取組・成果】

<取組>

☆公共交通や民間事業等を活用した日常生活支援事業の実施に向けた関係市町村との合意形成

○水郡線利用促進会議の事業実施

- ・第5回「乗ってみよう水郡線」児童絵画展の実施,「常陸太田駅夏物語2015」のイベント費助成,セツ洞公園イベントシャトルバス(上菅谷駅⇄セツ洞公園往復)の運行 ほか

<成果>

- ・上記事業に関係する上菅谷駅(H26:696人/日→H27:734人/日),常陸太田駅(同1,232→同1,235)で乗車人員の増加が見られた。

【H28年度の主な取組】

☆公共交通や民間事業等を活用した日常生活支援事業(常陸大宮市の公共交通システム実証)の実施

○水郡線利用促進会議の事業実施

- ・第6回「乗ってみよう水郡線」児童絵画展の実施,「常陸太田駅夏物語2016」のイベント費助成,奥久慈男体山登山シャトルバス(西金駅⇄登山口⇄常陸大子駅)の運行 ほか

- ★ 地方創生先行型交付金事業による取組 ☆ 地方創生加速化交付金・推進交付金事業による取組
- その他の取組

5 H27年度（最新年度）実績値・評価についての要因等分析，課題及び今後の取組の方向性

<分析結果>

○水郡線9駅の日平均乗車人員合計は，前年度同数を確保した。(H26:4,004人/日→H27:4,003人/日)

○そのうち，定期利用は前年度対比で増加(H26:3,091人/日→H27:3,099人/日)し，定期外利用は前年度対比で減少(同910人/日→同904人/日)した。

○なお，水郡線各駅の日平均乗車人員の実績値(上位5駅)は，以下のとおりであり，常陸大宮駅，大子駅の乗車人員が減少している。

- ①常陸太田(H26:1,232人/日→H27:1,235人/日)
- ②常陸大宮(同976人/日→同942人/日)
- ③上菅谷(同696人/日→同734人/日)
- ④常陸大子(同334人/日→同324人/日)
- ⑤瓜連(同294人/日→同302人/日)

<課題及び今後の取組の方向性>

[課題] 通勤・通学定期利用者の確保

○水郡線沿線人口の減少が続き，通勤・通学などの乗車人員の大幅な増加は見込めないものの，引き続き沿線市町によるパーク&ライドの推進や通学定期券の購入助成など，通勤・通学定期利用者を確保する取組を実施していく必要がある。

→・沿線市町等と連携し，通勤・通学利用が見込める事業所や学校等への訪問により，利用促進活動を実施する。

[課題] 観光・イベントなど定期外利用者の確保

○通勤・通学定期利用者向けの取組のほか，観光・イベントなどと連携した利用促進策を講じていく必要がある。

→・沿線市町等と連携し，沿線地域の観光資源やイベントなどと連携した利用促進に向けた取組を実施する。

[課題] 観光・イベントなど利用促進PRの通年化

○観光・イベントなどによる利用促進策については，特定の時期のみの利用促進ではなく，通年で乗車人員が増加するような方策を検討する必要がある。

→・沿線市町や関係団体等と連携し，季節に応じた観光・イベントなど，年間を通じた水郡線の利用促進事業を展開する。

※KPIの進捗状況や取組成果等を踏まえて記載する。

※課題については見出しを付けて，概要を記載するとともに，「→」で今後の取組の方向性について記載。

茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標・KPI進捗状況調査

担当部・課名 土木部・都市計画課
(内線4587)

1 項目

[KPI]

立地適正化計画（コンパクトシティ実現に向けた計画）策定市町村数
(H26) - 市町村 → (H31) 5市町村

2 県総合戦略における位置付け

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する
施策	(ア) 人口減少下におけるまちづくり・地域連携の推進 ②「コンパクトシティ」の形成

3 数値目標・KPIの進捗状況

	[単位] 市町村	現状値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31
立地適正化計画 (コンパクトシティ 実現に向けた計画) 策定市町村数	期待値	-	1	3	4	5	5
	実績値		0				
	達成率・ 評価(※)		0.0% C				
出典：都市計画課 調査 (毎年度実施)	最新データ公表時点	平成28年3月31日			平成27年度の実績値		
	次回データ公表時点	平成29年3月31日			平成28年度の実績値		

※ 評価 A：順調（「実績値」が「期待値」以上）、B+：概ね順調（「実績値」が「期待値」の80～99%）、
B：やや遅れ（「実績値」が「期待値」の50～79%）、C：遅れ（「実績値」が「期待値」の50%未満）

○数値目標・KPIの設定根拠【総合戦略策定時】

【設定の考え方】	市町村の取組意向及び立地適正化計画作成の支援事業（国補助）の進捗状況により設定。（立地適正化計画：改正都市再生特別措置法（H26.8）により制度化）
【算出方法】	計画作成にあたり、都市構造等の調査・分析、住民合意形成など一連の作業・手続に2か年程度要するものとして算出。

4 指標に関連する取組・成果等

【H27年度の主な取組・成果】

<取組>

- 庁内関係各課による「集約と連携のまちづくりワーキングチーム」会議の開催（H27：4回開催）
- 講習会・研修会の開催（市町村対象、H27：2回開催）
- メールマガジンによる国や先進自治体等の最新情報の配信（H27：10回配信）
- モデル都市における事例研究（H27：都市構造分析など）

<成果>

- ・平成28年度に新規着手した市町村 3市町村（古河市、下妻市、高萩市）
※H26：新規 1市町村（牛久市）、H27：新規 3市町村（水戸市、土浦市、つくば市）

【H28年度の主な取組】

- 「集約と連携のまちづくりワーキングチーム」会議の開催（H28：4回程度開催予定）
- 講習会・研修会の開催（市町村対象、H28：4回程度開催予定）
- メールマガジンによる国や先進自治体等の最新情報の配信（H28：10回程度配信予定）
- 市町村個別打合せの実施（H28：41市町村実施予定）

- ★ 地方創生先行型交付金事業による取組 ☆ 地方創生加速化交付金・推進交付金事業による取組
- その他の取組

5 H27年度（最新年度）実績値・評価についての要因等分析，課題及び今後の取組の方向性

<分析結果>

- 平成26年8月に立地適正化計画が制度化され，本県では1市が平成26年度から着手し，国と相談しながら進めてきたが，全国の先行事例も少なく，計画作成には地元合意も含めて2か年要することとなったため，平成27年度内に作成完了できなかった。
(平成27年度の作成完了は全国でも2市のみ)
制度化から2か年経過する平成28年度からは，作成完了する市町村が増えていく見込みである。
(平成28年度 作成完了予定 3市町村)

<課題及び今後の取組の方向性>

[課題] 新規着手市町村の増加

- 計画作成の意向がある市町村が増えており，円滑な作成着手や着実な作成作業実施につなげる取組が必要である。
→ 引き続き，ワーキングチームの活用や講習会の開催などにより，市町村の計画作成を支援していく。

※K P Iの進捗状況や取組成果等を踏まえて記載する。

※課題については見出しを付けて，概要を記載するとともに，「→」で今後の取組の方向性について記載。

茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標・KPI進捗状況調査

担当部・課名 農林水産部・農村環境課
(内線4263)

1 項目

[KPI]

主要な都市農村交流施設利用者数（中山間地域）

(H26) 2,203 千人 → (H31) 2,380 千人

2 県総合戦略における位置付け

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する
施策	(ア) 人口減少下におけるまちづくり・地域連携の推進 ③自立できる中山間地域づくり

3 数値目標・KPIの進捗状況

	[単位] 千人	現状値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31
主要な都市農村交流施設利用者数	期待値	2,203	2,203	2,247	2,291	2,335	2,380
	実績値		2,312				
	達成率・評価(※)		104.9% A				
出典：県農林水産部調査 (毎年度実施)	最新データ公表時点	平成28年8月8日			平成27年度の実績値		
	次回データ公表時点	平成29年6月			平成28年度の実績値		

※ 評価 A：順調（「実績値」が「期待値」以上）、B+：概ね順調（「実績値」が「期待値」の80～99%）、
B：やや遅れ（「実績値」が「期待値」の50～79%）、C：遅れ（「実績値」が「期待値」の50%未満）

○数値目標・KPIの設定根拠【総合戦略策定時】

【設定の考え方】	<ul style="list-style-type: none"> 平成32年度（県総合計画最終年度）の目標値について、現況値の10%増とする。 地方総合戦略の目標値は、取組期間がH31年度までのため、県総合計画等の目標値の4/5とする。
【算出方法】	<ul style="list-style-type: none"> 2,203千人（H26：基準値）×1.1 ≒ 2,423千人（H32目標値） (2,423千人－2,203千人) ×4/5 + 2,203千人 ≒ 2,380千人

4 指標に関連する取組・成果等

【H27年度の主な取組・成果】

<取組>

- ★モニターツアー実施による交流人口の拡大の取組や、フルーツほおずきといった販売品目拡大、野菜ソムリエ取得店員設置など、直売所（都市農村交流施設）の魅力向上につながる取組みの支援（支援団体数 H27：8団体）
- ★新設された道の駅「道の駅 常陸大宮」の開設にあたっての大賀地域活性化協議会の設立、特産品開発等のアグリビジネス創出に向けた支援
- 研修会や意見交換会等を通じて、都市農村交流実践者に対し、受入れに必要な知識の習得やスキルアップ等を支援

<成果>

- ・県北中山間地域の地元自治体に地域資源を活用した地方創生の意欲を高めることができ、大子町の奥久慈茶の販売促進や、常陸大宮市の「道の駅 常陸大宮」での新たな加工品開発など4件の地域提案型プロジェクトが提案されたほか、モニターツアー実施やフルーツほおずき等の販売品目の拡大や野菜ソムリエ取得店員の設置などにより、地域の直売施設の利用者増につなげることができた。
- ・都市農村交流実践者を対象に外国人受入れに関する研修会を開催し、国内だけでなく国外の利用者を受け入れる体制を整えた。

【H28年度の主な取組】

- 「元気な農山村創生チャレンジ事業」（支援団体数 H28：9 団体）及び「中山間地域アグリビジネスモデル創出調査研究事業」（実施地区数 H28：5 地域）において、リンゴ新品種開発や、バナナインゲン「常陸大黒」、「エゴマ」、「マダケ」、「柿」、「茶」等を活用した新たな加工品開発など、特産品としての販売につながる取組みを支援し、「奥久慈だいが」「常陸大宮」「ひたちおおた」等の道の駅、直売所（都市農村交流施設）の魅力向上を図る。
- 農林漁業体験施設のプログラム作成や農産物直売所における農産物のPR方法等について、都市農村交流実践者を対象にワークショップを開催し、知識の習得やスキルアップによる受入れ体制の強化を図る。

- ★ 地方創生先行型交付金事業による取組 ☆ 地方創生加速化交付金・推進交付金事業による取組
- その他の取組

5 H27年度（最新年度）実績値・評価についての要因等分析、課題及び今後の取組の方向性

<分析結果>

- 新設の常陸大宮、常陸太田の道の駅の開設時期に合わせて、直売所（都市農村交流施設）の魅力向上、交流人口増加につなげるため、特産品開発等の取組を支援したことにより、地元生産者の士気を高めることができ、中山間地域全体の都市農村交流施設の利用者増につなげることができた。

<課題及び今後の取組の方向性>

[課題] 都市農村交流施設への誘客の促進

- 農村地域への人の流れをさらに拡大させるため、既存の道の駅、直売所等も含めた、都市農村交流施設の魅力アップによる誘客促進を図る必要がある。
- ・中山間地域の特長を生かし、特産物などを活用した産地の育成し、特産品としての販売やPRなどの場として直売所や道の駅を積極的な活用し、地域活性化を図っていく。また、大学や地域おこし協力隊など外部人材を活用したアグリビジネスの取組みを推進する。

※KPIの進捗状況や取組成果等を踏まえて記載する。

※課題については見出しを付けて、概要を記載するとともに、「→」で今後の取組の方向性について記載。

茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標・KPI進捗状況調書

担当部・課名 企画部・県北振興課
(内線 2715)

1 項目

[KPI]

ビジネスプラン応募件数 (H26) 64件 → (H31)65件

2 県総合戦略における位置付け

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
施策	(ア) 人口減少下におけるまちづくり・地域連携の推進 ④県北地域の振興

3 数値目標・KPIの進捗状況

	[単位] 件	現状値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31
ビジネスプラン 応募件数	期待値	64	65	65	65	65	65
	実績値		51				
	達成率・ 評価(※)		78.5% B				
出典：県企画部調べ (毎年度実施)	最新データ公表時点	平成 28 年 4 月 1 日			平成 27 年度の実績値		
	次回データ公表時点	平成 29 年 4 月上旬			平成 28 年度の実績値		

※ 評価 A：順調（「実績値」が「期待値」以上）、B+：概ね順調（「実績値」が「期待値」の80～99%）、
B：やや遅れ（「実績値」が「期待値」の50～79%）、C：遅れ（「実績値」が「期待値」の50%未満）

○数値目標・KPIの設定根拠【総合戦略策定時】

【設定の考え方】	H26年度におけるビジネスプランの応募実績（64件）を基に、毎年度、同程度の応募件数を目指す。
【算出方法】	同上

4 指標に関連する取組・成果等

【H27年度の主な取組・成果】

<取組>

県北地域の活性化につながる新規ビジネスプランを募集し、入賞者に賞金を授与（事業化を支援）

- 県北6市町、商工会等訪問による募集PRの実施
- ビジネスプラン作成講座の開催（3回）と経営コンサルタントによる個別相談の実施（随時）
- ビジネスプランコンペティションの開催（入賞6プラン）

<成果>

- ・応募件数が前年より減少したものの、個別相談を実施したことにより審査員の意見ではビジネスプランの質が向上した。

【H28年度の主な取組】

- 県北6市町、商工会等訪問による募集PRの実施
- 首都圏でのキックオフイベント開催や首都圏の起業家支援団体を活用した首都圏向けPRの強化
- ビジネスプラン作成講座の開催（4回）と経営コンサルタントによる個別相談の実施（随時）
- ビジネスプランコンペティションの開催

- ★ 地方創生先行型交付金事業による取組 ☆ 地方創生加速化交付金・推進交付金事業による取組
- その他の取組

5 H27年度（最新年度）実績値・評価についての要因等分析，課題及び今後の取組の方向性

＜分析結果＞

- 県北地域内からの応募の減少が顕著（▲17件）であり，日立商工会議所，北茨城市，高萩市及び常陸大宮商工会において，創業支援セミナー等を新たに開始したことが一因と考えられる

＜課題及び今後の取組の方向性＞

[課題] ビジネスプランの応募件数及び質の確保

- 県北地域内からの応募に加え，県内・外からの応募を増やし，ソトモノ等による新たな発想のビジネスプランを発掘していく。
- ・既に創業支援等を実施している市町と連携するとともに，これまでの受賞者の活動を積極的にPRし，当コンペの価値を高めていく。

※KPIの進捗状況や取組成果等を踏まえて記載する。

※課題については見出しを付けて，概要を記載するとともに，「→」で今後の取組の方向性について記載。

茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標・KPI進捗状況調書

担当部・課名 企画部・県北振興課
(内線 2724)

1 項目

[KPI]

アイデア提案型インターンシップ参加者数 (H26) 7人 → (H31) 20人

2 県総合戦略における位置付け

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
施策	(ア) 人口減少下におけるまちづくり・地域連携の推進 ④ 県北地域の振興

3 数値目標・KPIの進捗状況

	[単位] 人	現状値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31
アイデア提案型 インターンシップ 参加者数	期待値	(7)	20	20	20	20	20
	実績値		14				
	達成率・ 評価(※)		70.0%				
最新データ公表時点			平成 28 年 4 月 1 日		平成 27 年度の実績値		
次回データ公表時点			平成 29 年 4 月上旬		平成 28 年度の実績値		

出典:アイデア提案型インターンシップ参加者数集計
(毎年度実施)

※ 評価 A: 順調(「実績値」が「期待値」以上), B+: 概ね順調(「実績値」が「期待値」の 80~99%),
B: やや遅れ(「実績値」が「期待値」の 50~79%), C: 遅れ(「実績値」が「期待値」の 50%未満)

○数値目標・KPIの設定根拠【総合戦略策定時】

【設定の考え方】	H26 年度基準値(インターン実施回数 1 回[春休み], 参加学生 7 人)を踏まえ, H27 以降, 通年実施(年 2 回)となるため, その 2 倍強を目標値に設定 ※ 7 人 × 2 回 + α = 20 人
【算出方法】	インターン実施回数・年 2 回(春休み, 夏休み) ・受入企業数 7 社 × 2 回 ÷ 15 社 ・参加学生数 各社 1 ~ 2 名 × 15 社 ÷ 20 名

4 指標に関連する取組・成果等

<p>【H27 年度の主な取組・成果】</p> <p><取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県北 6 市町, 商工会, 企業訪問によるインターンシップ受入企業の新規開拓の実施 ※ H27 受入企業: 延べ 11 社(旅館業 4 社, 食品製造・販売 4 社など) ○ インターン生募集 WEB サイトへの掲載による学生募集の実施 ○ インターンシップフェアの開催による参加学生募集の実施 ○ 大学個別訪問による参加学生の募集の実施。 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受入企業の開拓, 参加学生の募集活動により 14 人のインターンシップの参加者を確保した。 <p>【H28 年度の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県北 6 市町, 商工会, 企業訪問によるインターンシップ受入企業の新規開拓の実施。 ○ インターン生募集 WEB サイトへの掲載による学生募集の実施 ○ 各団体が実施するインターンシップフェアへの出展による参加学生募集の実施 ○ 大学個別訪問による参加学生の募集の実施。
--

★ 地方創生先行型交付金事業による取組 ☆ 地方創生加速化交付金・推進交付金事業による取組 ○ その他の取組

5 H27年度（最新年度）実績値・評価についての要因等分析，課題及び今後の取組の方向性

<分析結果>

- 受入企業の開拓やインターンシップフェアの開催，大学への個別訪問等による学生募集活動を実施したが，マッチングに至らないケースもあり，目標値を上回ることができなかった。

<課題及び今後の取組の方向性>

[課題] インターン受入企業の充実

- 1社あたりの受入人数が1～3名程度であることから，さらなる受入企業の開拓に努め，学生の多様なニーズに対応していく必要がある。
- ・県北6市町，商工会等と協力しながら，新規開拓を行っていく。

※K P Iの進捗状況や取組成果等を踏まえて記載する。

※課題については見出しを付けて，概要を記載するとともに，「→」で今後の取組の方向性について記載。

茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標・KPI進捗状況調査

担当部・課名 総務部・市町村課
(内線 2482)

1 項目

[KPI] 定住自立圏構想に取り組む市町村数 (H26) 1市町村 → (H31) 11市町村
--

2 県総合戦略における位置付け

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
施策	(ア) 人口減少下におけるまちづくり・地域連携の推進 ⑤ 市町村広域連携の促進

3 数値目標・KPIの進捗状況

	[単位] 市町村	現状値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31
定住自立圏構想に 取り組む市町村数	期待値	1	1	11	11	11	11
	実績値		1				
	達成率・ 評価(※)		—				
出典：県総務部調べ (市町村への取組状況 調査 [随時実施])	最新データ公表時点		平成 28 年 4 月 1 日		平成 27 年度の実績値		
	次回データ公表時点		平成 29 年 4 月 1 日		平成 28 年度の実績値		

※ 評価 A：順調（「実績値」が「期待値」以上）、B+：概ね順調（「実績値」が「期待値」の80～99%）、
B：やや遅れ（「実績値」が「期待値」の50～79%）、C：遅れ（「実績値」が「期待値」の50%未満）

○数値目標・KPIの設定根拠【総合戦略策定時】

【設定の考え方】	全国の市町村数に対する定住自立圏を形成する市町村数の割合（約25%）を目標。 （参考）全市町村数：1,718、定住自立圏形成市町村数：447（H27） 県内市町村数の25%で算出。
【算出方法】	44市町村 × 0.25 = 11市町村 ※達成率について、H27としての実績はないため、評価対象外。

4 指標に関連する取組・成果等

<p>【H27年度の主な取組・成果】</p> <p><取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域支援研究会（講演会）の開催による広域連携の機運醸成（県央、県北・鹿行 計2回） ○ 国の支援施策、全国の先進事例等の情報提供 ○ 現時点で圏域形成済みである大子町（栃木県大田原市とH26.1に協定締結）の情報収集 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村における広域連携に向けた機運醸成が図られた。 ・県央地域については、H28年度当初の圏域形成協定の締結について基本合意に至った。 ・結城市が栃木県小山市との圏域形成協定の締結について基本合意に至った。（H28.4協定締結予定） <p>【H28年度の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市町村広域連携スタートアップ支援事業（H28～）による、広域連携の検討の場の設置にかかる事務費等の支援。（補助率：1/2、上限額：175万円/1圏域） ○ 定住自立圏・広域連携に関する講演会・セミナーの開催による機運醸成。 ○ 中心市要件を満たす市への積極的な情報提供、助言。
--

★ 地方創生先行型交付金事業による取組 ☆ 地方創生加速化交付金・推進交付金事業による取組
○ その他の取組

5 H27年度（最新年度）実績値・評価についての要因等分析，課題及び今後の取組の方向性

<分析結果>

- 定住自立圏施策の実施にあたっての国の財政支援措置の周知に努めるとともに，講演会等の開催により，市町村間における広域連携の形成に向けた機運の醸成を図ることができた。
- 水戸市を中心市とした茨城県央地域定住自立圏については，圏域形成協定の締結に向けた円滑な協議が行われ，H28年度の目標数値である11市町村の実現に向け，進捗がみられた。

<課題及び今後の取組の方向性>

[課題] 水戸市以外の中心市の要件を満たす市への助言等

- 水戸市以外の中心市要件を満たす市（7市）については，H27年度は圏域形成に向けた具体的な動きが見られなかったことから，これらの市に定住自立圏・広域連携への検討を促すことが課題。

→ 水戸市や全国における先進事例について情報提供するとともに，講演会等の開催より更なる機運醸成を図る。

更に周辺市町村との広域連携の検討の場の設置について積極的に助言し，市町村広域連携スタートアップ支援事業により当該検討の場の設置にかかる事務費等を支援していく。

※K P Iの進捗状況や取組成果等を踏まえて記載する。

※課題については見出しを付けて，概要を記載するとともに，「→」で今後の取組の方向性について記載。

茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標・KPI進捗状況調書

担当部・課名 総務部・管財課
(内線 2379)

1 項目

[KPI] 個別施設計画策定数 (H26) 9計画 → (H32) 26計画 ※H26 は一部策定済みの計画を含み、H32 は現時点での全ての想定計画数
--

2 県総合戦略における位置付け

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する
施策	(ア)人口減少下におけるまちづくり・地域連携の推進 ⑥公共施設等の安全・安心な利用を基本とした計画的な更新・統廃合・長寿命化等による財政負担の軽減・平準化、施設等の最適な配置の実現

3 数値目標・KPIの進捗状況

	[単位] 計画	現状値 H26	H27	H28	H29	H30	H31	目標値 H26~32累計
個別施設計画 策定数	期待値	9	12	13	15	18	20	26
	実績値		12					
	達成率・ 評価(※)		100.0% A					
	最新データ公表時点		平成 28 年 6 月 1 日			平成 27 年度の実績値		
出典：県総務部調べ (毎年度実施)			平成 29 年 6 月 1 日			平成 28 年度の実績値		

※ 評価 A：順調（「実績値」が「期待値」以上）、B+：概ね順調（「実績値」が「期待値」の80～99%）、
B：やや遅れ（「実績値」が「期待値」の50～79%）、C：遅れ（「実績値」が「期待値」の50%未満）

○数値目標・KPIの設定根拠【総合戦略策定時】

【設定の考え方】	個別施設計画は、原則として各省庁が定める「インフラ長寿命化計画」の対象となる施設類型毎に策定するものであるため、本県が保有する公共施設の施設類型数を個別施設計画数とした。
【算出方法】	同上

4 指標に関連する取組・成果等

<p>【H27年度の主な取組・成果】</p> <p><取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ○茨城県公共施設等総合管理計画推進委員会の設置・開催（H27：3回開催） ○職員向け研修会（H27：2回開催） <ul style="list-style-type: none"> ・茨城県公共施設等総合管理計画の周知及び先進自治体職員による取組事例の紹介 ○公共施設長寿命化等推進基金の設置 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○個別施設の策定に向けた庁内の推進体制を整備したことにより、各施設の所管部局間において情報共有や協議を進めることができた。 <p>【H28年度の主な取組・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○茨城県公共施設等総合管理計画推進委員会の開催（3回程度開催予定） ○庁舎系施設（建物等）の点検・診断

★地方創生先行型交付金事業による取組 ☆地方創生加速化交付金・推進交付金事業による取組 ○その他の取組

5 H27年度（最新年度）実績値・評価についての要因等分析，課題及び今後の取組の方向性

<分析結果>

○個別施設の策定に向けた庁内の推進体制を整備したことにより，各施設の所管部局間において情報共有や協議を進められたため，目標値を達成することができた。

<課題及び今後の取組の方向性>

[課題] 施設の個別施設計画策定のための共通の指標の作成

○施設類型ごとの個別施設計画の策定を各担当課で進めるに当たり，庁舎系施設，学校，警察施設，公営住宅，病院局施設等の建物系施設については，ある程度共通の指標が必要となる。（インフラ施設については，それぞれの施設の特性が異なるため，施設類型ごとによる。）

→・建物系施設の計画として統一化が図れるよう，共通の基準として，目標使用年数，長寿命化に有効な部材，長寿命化工事の方法等を定めた「実施基準」を定める。

※K P I の進捗状況や取組成果等を踏まえて記載する。

※課題については見出しを付けて，概要を記載するとともに，「→」で今後の取組の方向性について記載。

茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標・KPI進捗状況調書

担当部・課名 商工労働観光部・中小企業課
(内線3550)

1 項目

[KPI]

商店街における活性化事業計画の策定件数(累計)(H22~26累計)14件 → (H22~31累計)30件

2 県総合戦略における位置付け

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
施策	(イ)人口減少社会、超高齢化社会における生活支援サービスの維持 ①生活支援サービスの維持

3 数値目標・KPIの進捗状況

	[単位] 件	現状値 H22~26累計	H27	H28	H29	H30	目標値 H22~31累計
商店街における 活性化事業計画の 策定件数(累計)	期待値	14	17	21	24	27	30
	実績値		17				
	達成率・ 評価(※)		100.0% A				
出典：県商工労働観光部調べ (毎年度実施)	最新データ公表時点		平成28年3月31日		平成27年度の実績値		
	次回データ公表時点		平成29年3月31日		平成28年度の実績値		

※ 評価 A：順調（「実績値」が「期待値」以上）、B+：概ね順調（「実績値」が「期待値」の80~99%）、
B：やや遅れ（「実績値」が「期待値」の50~79%）、C：遅れ（「実績値」が「期待値」の50%未満）

○数値目標・KPIの設定根拠【総合戦略策定時】

【設定の考え方】	商店街における活性化事業計画策定の状況 現状：H22:2件、H23:6件、H24:1件、H25:2件、H26:3件 計14件
【算出方法】	14件(現状) + 16件(年間3.2件×5年:目標) = 30件

4 指標に関連する取組・成果等

【H27年度の主な取組・成果】

<取組>

- 魅力ある商店街づくり支援事業（新規採択3件）
 - ・ 地域資源や消費者ニーズ等を踏まえた活性化プランの策定について、市町村とともに支援

<成果>

- ・ 3件(市町)のプラン策定を支援した。

【H28年度の主な取組】

- 魅力ある商店街づくり支援事業（新規採択2件、継続支援3件）
 - ・ 地域資源や消費者ニーズ等を踏まえた活性化プランの策定及びプランに基づく自立的な活性化事業について、市町村とともに支援
 - 商店街コミュニティ活動支援事業（新規採択2件）
 - ・ 商業等の振興の取組と併せて行う、地域住民のニーズに対応した地域コミュニティ活動の取組を市町村とともに支援
- ※計4件を採択

5 H27年度（最新年度）実績値・評価についての要因等分析，課題及び今後の取組の方向性

<分析結果>

○魅力ある商店街づくり支援事業により，毎年2～3件ずつ，継続して活性化計画の策定を支援しているため，期待値に沿う成果となった。

<課題及び今後の取組の方向性>

[課題] プラン策定件数の確保

○商店街活性化事業計画を継続して支援していくとともに，採択した事業計画が活性化につながる内容となるよう支援していく必要がある。

→・引き続き，市町村をはじめ商店街等各種団体と連携を図り，プラン策定件数を確保して商店街活性化を促進していく。

※KPIの進捗状況や取組成果等を踏まえて記載する。

※課題については見出しを付けて，概要を記載するとともに，「→」で今後の取組の方向性について記載。

茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標・KPI進捗状況調査

担当部・課名：保健福祉部・長寿福祉課
(内線3326)

1 項目

[KPI]

元気シニアバンクの登録件数 (H26) 146件 → (H29) 200件

2 県総合戦略における位置付け

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
施策	(イ)人口減少社会、超高齢社会における生活支援サービスの維持 ②元気な高齢者が社会参加できる環境づくり

3 数値目標・KPIの進捗状況

	[単位] 件	現状値 H26	H27	H28	目標値 H29		
元気シニアバンクの登録件数	期待値	146	160	176	200		
	実績値		138				
	達成率・評価(※)		-57.1% C				
出典：県保健福祉部調べ (毎年度実施)	最新データ公表時点	平成28年4月1日			平成27年度の実績値		
	次回データ公表時点	平成29年4月			平成28年度の実績値		

※ 評価 A：順調（「実績値」が「期待値」以上）、B+：概ね順調（「実績値」が「期待値」の80～99%）、
B：やや遅れ（「実績値」が「期待値」の50～79%）、C：遅れ（「実績値」が「期待値」の50%未満）

○数値目標・KPIの設定根拠【総合戦略策定時】

【設定の考え方】	平成27年度以降、対前年度比10%の上昇を目指す。
【算出方法】	平成27年度： 146件 × 1.1 ≒ 160件 平成28年度： 160件 × 1.1 ≒ 176件 平成29年度： 176件 × 1.1 ≒ 200件

4 指標に関連する取組・成果等

【H27年度の主な取組・成果】

<取組>

- リーフレットを作成し、市町村等に配付
- HP、県社協わくわくセンター広報誌（年4回 各10,000部）での事業紹介
- 茨城、読売、日経、朝日、毎日、産経、東京新聞に広告掲載
- 老人週間パネル展でパネル等展示（県庁舎2階）
- 茨城フェア（イオンつくば店）でポスター展示、リーフレット配布
- 県内イオン店舗（13店舗）においてリーフレット配布
- いばらきねんりん文化祭（県主催）においてリーフレット配布

<成果>

上記取組の実施により、新規に11名が登録したが、期待値には達しなかった。

【H28 年度の主な取組】

- リーフレットを作成し、市町村等に配付
- HP、県社協わくわくセンター広報誌（年4回 各10,000部）での事業紹介
- 茨城フェア（イオンつくば店）でリーフレット配布
- 老人週間パネル展でパネル等展示（県庁舎2階）
- 県広報紙「ひばり」に募集記事の掲載
- 地域コミュニティ誌に掲載予定
- 各市町村広報誌への募集記事掲載の依頼
- いばらきねんりん文化祭（県主催）においてリーフレット配布予定
- 関係団体・個人を個別訪問し登録勧誘

- ★ 地方創生先行型交付金事業による取組 ☆ 地方創生加速化交付金・推進交付金事業による取組
- その他の取組

5 H27 年度（最新年度）実績値・評価についての要因等分析，課題及び今後の取組の方向性

<分析結果>

- 新聞広告や各種広報機会を捉え、積極的に事業内容の周知，新規登録の勧誘を実施することにより，新規に11名が登録したが，登録者の高齢化により，更新辞退者が増えたため，期待値に届かなかった。

<課題及び今後の取組の方向性>

[課題] 新規登録者の拡充

- 新聞広告や各種広報機会を捉え、積極的に事業内容の周知，新規登録を促したが，登録者の高齢化により，19名が更新を辞退したため，期待値を上回ることができなかった。
→各種広報機会を捉えて事業内容の周知，新規登録を促すほか，関係団体や個人に対して個別訪問等を行い，新規登録勧誘を実施していく。

※KPIの進捗状況や取組成果等を踏まえて記載する。

※課題については見出しを付けて，概要を記載するとともに，「→」で今後の取組の方向性について記載。

茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標・KPI進捗状況調査

担当部・課名：保健福祉部・長寿福祉課
(内線3282)

1 項目

[KPI]

シルバーリハビリ体操指導士数 (H26) 6,685人 → (H29) 10,000人

2 県総合戦略における位置付け

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
施策	(イ)人口減少社会、超高齢社会における生活支援サービスの維持 ②元気な高齢者が社会参加できる環境づくり

3 数値目標・KPIの進捗状況

	[単位] 人	現状値 H26	H27	H28	目標値 H29		
シルバーリハビリ 体操指導士数	期待値	6,685	7,790	8,895	10,000		
	実績値		7,243				
	達成率・ 評価(※)		50.5% B				
出典：県立健康プラザ調べ (毎年度調査)	最新データ公表時点		平成28年4月1日		平成27年度の実績値		
	次回データ公表時点		平成29年4月1日		平成28年度の実績値		

※ 評価 A：順調（「実績値」が「期待値」以上）、B+：概ね順調（「実績値」が「期待値」の80～99%）、
B：やや遅れ（「実績値」が「期待値」の50～79%）、C：遅れ（「実績値」が「期待値」の50%未満）

○数値目標・KPIの設定根拠【総合戦略策定時】

【設定の考え方】	シルバーリハビリ体操指導士養成を開始した平成17年度において、特定高齢者（65歳以上で生活機能が低下し近い将来介護が必要となるおそれがある高齢者数）を推計し設定。
【算出方法】	平成17年度において特定高齢者は5万人と推計され、それら高齢者の5人に1人の指導士養成(10,000人)を目標として設定。

4 指標に関連する取組・成果等

【H27年度の主な取組・成果】

<取組>

- 3級養成講習会開催（H27：14コース開催）
- 2級養成講習会開催（H27：6コース開催）
- 1級養成講習会開催（H27：1コース開催）
- 指導士養成に係る市町村説明会（H27：3回開催）
- シルバーリハビリ体操指導士フォローアップ研修会（H27：5地域で開催）
- シルバーリハビリ体操普及講習会（H27：6回開催）

<成果>

市町村向けの説明会の開催等により、市と指導士会の連携を図り、市町村で3級養成講習会を実施可能なように体制を整えることができた。

【H28年度の主な取組】

- 3級養成講習会開催（H28：14コース開催予定）
- 2級養成講習会開催（H28：6コース開催予定）
- 1級養成講習会開催（H28：1コース開催予定）
- 指導士養成に係る市町村説明会（H28：3回開催予定）
- シルバーリハビリ体操指導士フォローアップ研修会（H27：5地域で開催）
- シルバーリハビリ体操普及講習会（H28：6回開催）

- ★ 地方創生先行型交付金事業による取組 ☆ 地方創生加速化交付金・推進交付金事業による取組
- その他の取組

5 H27年度（最新年度）実績値・評価についての要因等分析，課題及び今後の取組の方向性

<分析結果>

- 県立健康プラザ及び各市町村で開催している養成講習会により，これまでに7,243人の指導士を養成してきた。27年度末の実績は期待値に届いていないものの，養成した指導士の地域活動実績は年々伸びている。今後は，養成講習会への応募数が減少傾向にあるため，市町村や関係団体等と連携しながら，シルバーリハビリ体操普及講習会等を通して，さらに広報に努めて養成を加速し，目標の達成を目指していく。

<課題及び今後の取組の方向性>

[課題] 3級養成講習会の受講者数の増加

- 27年度の3級養成講習会市町村開催については，26市町村であり，また3級養成講習会の受講者数が減少していることが課題。
 - 全市町村において3級養成講習会を開催できるよう市町村向けの説明会を通じた市町村への働きかけやシルバーリハビリ体操普及講習会等を通して，さらに広報に努めて養成を加速し，目標の達成を目指していく。

※K P Iの進捗状況や取組成果等を踏まえて記載する。

※課題については見出しを付けて，概要を記載するとともに，「→」で今後の取組の方向性について記載。

茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標・KPI進捗状況調査

担当部・課名：保健福祉部・長寿福祉課
(内線3282)

1 項目

[KPI]

地域包括支援センター数 (H26) 59 箇所 → (H29) 152 箇所

2 県総合戦略における位置付け

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する
施策	(イ)人口減少社会、超高齢社会における生活支援サービスの維持 ③高齢者等が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境づくり

3 数値目標・KPIの進捗状況

	[単位] 箇所	現状値 H26	H27	H28	目標値 H29		
地域包括支援 センター数	期待値	59	79	100	152		
	実績値		67				
	達成率・ 評価(※)		40.0% C				
	最新データ公表時点		平成 28 年 4 月 1 日		平成 27 年度の実績値		
			平成 29 年 4 月 1 日		平成 28 年度の実績値		

出典：県保健福祉部調べ
(毎年度実施)

※ 評価 A：順調（「実績値」が「期待値」以上）、B+：概ね順調（「実績値」が「期待値」の80～99%）、
B：やや遅れ（「実績値」が「期待値」の50～79%）、C：遅れ（「実績値」が「期待値」の50%未満）

○数値目標・KPIの設定根拠【総合戦略策定時】

【設定の考え方】	地域包括ケア実現に向けた中核機関である「地域包括支援センター」について、市町村では、中学校区単位など地域の実情に応じた日常生活圏域を定めることとされており、「第6期介護保険事業計画（H27～29）」において、市町村が設定した日常生活圏域の合計数を目標値として設定。
【算出方法】	同上

4 指標に関連する取組・成果等

<p>【H27年度の主な取組・成果】</p> <p><取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域包括支援センター職員研修の開催（地域包括支援センター職員対象，H27：2回開催） ○ 地域包括支援センター運営に係る事業費を地域支援事業交付金より交付 H27 県交付額（包括的支援事業および任意事業）：555,922 千円 ※介護保険法において、地域支援事業のうち包括的支援事業（地域包括支援センター運営費等）については、対象経費の19.5%が県負担。 <p><成果></p> <p>地域包括支援センターの基本業務内容や先進事例等を学ぶことにより、地域包括支援センター職員に必要な知識と技術の習得を図った。</p> <p>【H28年度の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域包括支援センター職員研修の開催（地域包括支援センター職員対象，2回開催予定） ○ 地域包括支援センター運営に係る事業費を地域支援事業交付金より交付
--

★地方創生先行型交付金事業による取組 ☆地方創生加速化交付金・推進交付金事業による取組 ○その他の取組

5 H27年度（最新年度）実績値・評価についての要因等分析，課題及び今後の取組の方向性

<分析結果>

- 平成26年度までは地域包括支援センター数については横ばいだったが，介護保険法改正に伴う事業の遂行に備えた研修等を実施したことにより，センターの適切な運営及び機能強化が図られ，平成27年度の設置数の増加につながった。

<課題及び今後の取組の方向性>

[課題] 実情を踏まえた地域包括支援センター等の効果的・効率的な設置

- 県民が地域包括支援センターのサービスを楽しむ環境を整備するため，センターに配置すべき専門職の確保等，市町村が抱える課題も踏まえつつ，実情に応じたセンターの効果的・効率的な設置を促進する必要がある。
 - 限られた専門職を最大限活用するため，一カ所のセンターに職員を集約させて複数圏域を担当させたり，支所であるサブセンターや，地域の住民に身近な所で相談を受け付けてセンターにつながる機能を果たすブランチと呼ばれる窓口を設置したりするなど，市町村の実情に応じた効果的・効率的な設置を推進し，地域包括ケアの実現を図っていく。

※K P Iの進捗状況や取組成果等を踏まえて記載する。

※課題については見出しを付けて，概要を記載するとともに，「→」で今後の取組の方向性について記載。

茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標・KPI進捗状況調書

担当部・課名 生活環境部防災・危機管理局・消防安全課
(内線 2894)

1 項目

[KPI] 消防団員数 (H26) 23,830人 → (H31) 23,830人 (現状維持)

2 県総合戦略における位置付け

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
施策	(イ) 人口減少化社会、超高齢社会における生活支援サービスの維持 ④住民が地域防災の担い手となる環境の確保

3 数値目標・KPIの進捗状況

	[単位] 人	現状値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31
消防団員数	期待値	23,830	23,830	23,830	23,830	23,830	23,830 (現状維持)
	実績値		23,632	23,501			
	達成率・ 評価(※)		-0.8% C	-1.4% C			
出典:消防団の組織概要調査 (毎年度実施)	最新データ公表時点	平成28年4月1日			平成28年度の実績値		
	次回データ公表時点	平成29年4月1日			平成29年度の実績値		

※ 評価 A: 順調(「実績値」が「期待値」以上), B+: 概ね順調(「実績値」が「期待値」の80~99%),
B: やや遅れ(「実績値」が「期待値」の50~79%), C: 遅れ(「実績値」が「期待値」の50%未満)

○数値目標・KPIの設定根拠【総合戦略策定時】

【設定の考え方】	平成26年4月1日現在の消防団員数の維持
【算出方法】	平成26年4月1日現在消防団員数(23,830人)を維持

4 指標に関連する取組・成果等

<p>【H27年度の主な取組・成果】</p> <p><取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地方公務員、大学生の入団促進(県及び市町村の新規採用職員研修において消防団PR) ○ 大学生の入団促進(県立医療大学の入学式において消防団PR) ○ 消防団員募集に係る広報(県広報誌、NHKデータ放送及び新聞広告等を活用した広報の実施) ○ 市町村への個別訪問(県庁及び県出先機関で県職員分団の設置の働きかけを実施) ○ 女性消防団の結成促進(女性消防団未結成の6市町村に結成の働きかけを実施) ○ 消防団協力事業所表示制度の導入(要綱未制定の10市町に制度導入を要請) ○ 消防団を中核とした地域防災力の充実強化大会の実施(防災や災害時の多様な取組について紹介) <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 女性消防団が平成28年3月までに新たに3市で結成された。 ○ 消防団協力事業所表示制度に係る要綱未制定の10市町において、28年3月までに全ての市町で制度が導入された。 ○ 消防団を中核とした地域防災力の充実強化大会において、住民、事業者、自主防災組織、消防団、行政等が一層連携していくことが、地域の安全・安心の確保に重要であるとの共通認識の醸成を図ることができた。

【H28年度の主な取組】

- 女性消防団の結成促進（女性消防団未結成の3市町村に結成の働きかけ）
- 消防団員等が消防団の重要性や活動内容等を事業者等に対して説明する機会の確保（消防団長研修会等において説明）
- 子供たちが消防団の活動に触れられる機会の充実（消防協会支部総会や消防団長研修会の場において、県内で行われている各種活動を紹介）
- 消防団協力事業所数の増加（制度の概要や協力事業所の情報を県のHP等で周知）
- 消防団加入促進支援事業の実施（消防庁の消防団理解促進事業の委託による消防団PR動画の作成及び消防団への理解促進策等検討会議の開催）

- ★ 地方創生先行型交付金事業による取組 ☆ 地方創生加速化交付金・推進交付金事業による取組
- その他の取組

5 H27年度（最新年度）実績値・評価についての要因等分析，課題及び今後の取組の方向性

<分析結果>

- 消防団員数は、H26年度に引き続き減少したが、新たな女性消防団の結成が進み団員減少に歯止めが掛かることが期待される。

<課題及び今後の取組の方向性>

【課題】 消防団への理解と消防団員加入促進

- H28年度は、新たに消防庁の消防団理解促進事業の委託による消防団PR動画の作成及び消防団への理解促進策等検討会議を開催する。
→・PR動画は、子供向け、若者向け、事業者向けの3パターンを作成し、更なる消防団の理解促進を図っていく。また、理解促進策等検討会議においては、本県ならではの消防団員加入促進策を検討する。

※KPIの進捗状況や取組成果等を踏まえて記載する。

※課題については見出しを付けて、概要を記載するとともに、「→」で今後の取組の方向性について記載。

茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標・KPI進捗状況調査

担当部・課名 生活環境部防災・危機管理局・消防安全課
(内線 2894)

1 項目

[KPI]

消防団の安全装備品（救助用半長靴，救命胴衣，トランシーバー）の配備率
(H26) 救助用半長靴 27.2%，救命胴衣 13.4%，トランシーバー 5.0%
→ (H31) 救助用半長靴，救命胴衣，トランシーバー：100%

2 県総合戦略における位置付け

基本目標	4 時代に合った地域をつくり，安全なくらしを守るとともに，地域と地域を連携する
施策	(イ) 人口減少化社会，超高齢社会における生活支援サービスの維持 ④ 住民が地域防災の担い手となる環境の確保

3 数値目標・KPIの進捗状況

		[単位]	現状値	H27	H28	H29	H30	目標値
		%	H26					H31
消防団の安全装備品（救助用半長靴，救命胴衣，トランシーバー）の配備率	救助用半長靴	期待値	27.2	41.8	56.4	71.0	85.6	100.0
		実績値		59.9				
		達成率・評価(※)	143.3% A					
	救命胴衣	期待値	13.4	30.7	48.0	65.3	82.6	100.0
		実績値		22.9				
		達成率・評価(※)	74.6% B					
	トランシーバー	期待値	5.0	24.0	43.0	62.0	81.0	100.0
		実績値		7.8				
		達成率・評価(※)	32.5% C					
出典：県生活環境部調べ (毎年度実施)	最新データ公表時点	平成 28 年 4 月 1 日			平成 27 年度の実績値			
	次回データ公表時点	平成 29 年 4 月 1 日			平成 28 年度の実績値			

※ 評価 A：順調（「実績値」が「期待値」以上），B+：概ね順調（「実績値」が「期待値」の 80～99%），
B：やや遅れ（「実績値」が「期待値」の 50～79%），C：遅れ（「実績値」が「期待値」の 50%未満）

○数値目標・KPIの設定根拠【総合戦略策定時】

【設定の考え方】	消防団の安全装備品の配備率について、救助用半長靴 (27.2%)，救命胴衣 (13.4%)，トランシーバー (5.0%) をそれぞれ H31 年度中に 100% とする。
【算出方法】	(100% - 各安全装備品の配備率 [H26 年度の数値]) ÷ 5 年間

4 指標に関連する取組・成果等

【H27年度の主な取組・成果】

<取組>

- ★ 年3回の申請期間を設け、市町村が行う消防団の安全装備の購入に要する経費の一部を助成した。
(実績：34市町村に対し、総額21,060千円を助成)

<成果>

- ★ 救助用半長靴については、目標値の約1.5倍にあたる59.9%が配備されたが、救命胴衣及びトランシーバーについては、いずれも目標値を大きく下回った。

【H28年度の主な取組】

- 今年度は、年4回の申請期間を設け、市町村が行う消防団の安全装備の購入に要する経費の一部を助成する。

- ★ 地方創生先行型交付金事業による取組 ☆ 地方創生加速化交付金・推進交付金事業による取組
- その他の取組

5 H27年度（最新年度）実績値・評価についての要因等分析，課題及び今後の取組の方向性

<分析結果>

- 安全装備品のうち、個人それぞれに貸与される救助用半長靴については、予想を超える配備率となったが、救命胴衣やトランシーバーについては、**出動する消防自動車に乗車した団員が使用する**ため消防庁が示した配備数を要望する市町村は少なかった。

<課題及び今後の取組の方向性>

[課題] **安全装備品の更なる購入への働きかけ**

- 救命胴衣については、海岸線や湖沼及び一級河川等のない市町村に、トランシーバーについては、**他の装備品より高価なことと、個人装備品の救助用半長靴を優先して購入している**ことから、それぞれ配備が進まない状況となっている。

→・配備率の低い市町村に対しては、予算措置を講じるよう働きかけていく。

※KPIの進捗状況や取組成果等を踏まえて記載する。

※課題については見出しを付けて、概要を記載するとともに、「→」で今後の取組の方向性について記載。

茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標・KPI進捗状況調査

担当部・課名 生活環境部・防災・危機管理課
(内線 2885)

1 項目

[KPI]

自主防災組織の活動カバー率 (H26) 72.3%→(H31) 88.7%

2 県総合戦略における位置付け

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
施策	(イ) 人口減少下社会、超高齢社会における生活支援サービスの維持 ④住民が地域防災の担い手となる環境の確保

3 数値目標・KPIの進捗状況

	[単位] %	現状値 H26	H27	H28	H29	H30	目標値 H31
自主防災組織の活動 カバー率	期待値	72.3	85.0	85.9	86.7	87.8	88.7
	実績値		—				
出典：県調査、全国調査 (消防防災・震災対策 現況調査〔毎年度 実施〕)	達成率・ 評価(※)		—	—			
	最新データ公表時点		平成 27 年 4 月 1 日		平成 26 年度の実績値		
	次回データ公表時点		平成 28 年 12 月		平成 27 年度の実績値		

※ 評価 A：順調（「実績値」が「期待値」以上）、B+：概ね順調（「実績値」が「期待値」の80～99%）、
B：やや遅れ（「実績値」が「期待値」の50～79%）、C：遅れ（「実績値」が「期待値」の50%未満）

○数値目標・KPIの設定根拠【総合戦略策定時】

【設定の考え方】	各市町村の自主防災組織活動カバー率に差があることから、活動カバー率の低い市町村の値を向上させる。
【算出方法】	県内市町村の全てにおいて、自主防災組織活動カバー率を平成 31 年度までに 78.0%とすることで、県全体の活動カバー率を 88.7%にする。 基準値（平成 26 年度）のカバー率 78.0%以上の市町村 20 78.0%未満の市町村 24

4 指標に関連する取組・成果等

<p>【H27年度の主な取組・成果】</p> <p><取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自主防災組織のカバー率 70%未満の 17 市町村に対して、防災・危機管理課長が直接市町村長を訪問し、カバー率の向上を働きかけた。 ○ 自主防災組織リーダー研修会をつくば市、笠間市、鹿嶋市、高萩市で開催した。 (4箇所計 901 名が参加した。) ○ いばらき防災大学を龍ヶ崎市で開催した。(216 名が受講修了し、186 名が防災士試験に合格した。) ○ 市町村防災・危機管理担当課長会議や消防団長研修会でカバー率の向上を働きかけた。 ○ 自主防災組織結成促進事業（茨城県消防設備協会へ委託）による、出前講座等の実施 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在各市町村の活動カバー率を集計中

【H28 年度の主な取組】

- カバー率 60%未満の 8 市町に対する重点的な働きかけを行う。
- 自主防災組織防災講習会等運営費補助金の創設し、自主防災組織の結成・活動促進を図る。
- いばらき防災大学を今年度から 2 会場での開催（下妻市、常陸大宮市）に拡充。
- 地域防災力向上推進員（消防 OB）2 名を雇用し、出前講座や市町村への働きかけを実施する。
- 自主防災組織リーダー研修会を県内 3 箇所で開催する。
- 市町村防災・危機管理担当課長会議や消防団長研修会でのカバー率の向上を働きかける。

- ★ 地方創生先行型交付金事業による取組 ☆ 地方創生加速化交付金・推進交付金事業による取組
- その他の取組

5 H27 年度（最新年度）実績値・評価についての要因等分析，課題及び今後の取組の方向性

<分析結果>

- カバー率が全国平均値 81.0%（平成 27 年 4 月時点）を上回る見込み。

<課題及び今後の取組の方向性>

[課題] 自主防災組織活動カバー率の向上

- 活動カバー率向上が進まない市町村には、住民の理解不足や、職員のマンパワー不足等の課題があるため、各市町村が抱える課題に対する対応が必要。
→・地域防災力向上推進員（平成 28 年度から防災・危機管理課に配置，消防 OB）の派遣等により，市町村が抱える課題に対する解決策の提案していく。

※K P I の進捗状況や取組成果等を踏まえて記載する。

※課題については見出しを付けて、概要を記載するとともに、「→」で今後の取組の方向性について記載。